

佐藤和夫

水彩画

旅

230121

[└JR最長経路問題](#) [└JR最長経路の旅](#) [└私鉄と廃線の旅](#) [└旅日記目次](#) [└自己紹介](#)[佐藤和夫>](#) [旅>](#) [私鉄と廃線の旅>](#)

北海道/根室標津駅

[└北海道](#) [└関東](#) [└中部](#) [└九州・四国](#)

2024-09-13 一万年前から縄文人が住み着き、謎のオホーツク人が5世紀から9世紀まで暮らしていた、標津(しべつ)町に行って参りました。

標津は北海道でも東の端、海岸に立つとまるで瀬戸内海です。左に知床の山々、右に野付半島に重なって根室半島が見えます。正面は国後島、択捉島など国後諸島がの向こうに、いずれも「すぐそば」という感じで目と鼻の先です。↓

[↑ 根室標津駅/#標津遺跡から海を眺める](#)[🔍 画像拡大](#)

この、親潮(寒流)がまるで川のように流れる標津の環境が、遺跡を育て、オホーツク人を呼び寄せ、野付半島を生み出しました。

1. **標津遺跡群**[参照]: 根室標津駅から北へ3km海岸沿いに進むと、**#ポー川史跡自然公園** 入り口があります。そこから標津湿原を1km、気持ちの良い木道を歩くと目前に小高い台形の丘が現れてきます。丘の上がうわさの**#伊茶仁カリカリウス遺跡** (以下、丘の上遺跡と省略)です。ここに残る無数の堅穴くぼみをご覧ください。その数1200。それぞれの穴は古代の堅穴住居跡です。穴ごとに、それぞれの家族の歴史がありました。↓

[↑ 根室標津駅/#古代の堅穴住居跡](#)[🔍 画像拡大](#)



● 画像引用 『「[鮭の聖地](#)」の物語』 [参照]

林の、木と木の間、いたるところくぼみだらけで、壮観です。 古代、日本全体で20万人だった時に、なぜこんなに人が集まったかと言うと、つぎのような訳が。

台地に幅1mぐらいの小川=ポー川が流れていて、なんせ、栄養豊富な親潮を回遊してまると太った大きなサケが、ここに秋帰ってきます。 川で待ち受けていれば、どんどん入れ食い状態だったのです。 サケ遡上の様子については[私鉄と廃線の旅>西春別駅](#)をご覧ください。

ここで一句

【ポー川の、サケに支えられ、一万年】

さらに、氷点下20度の極寒でも凍らないわき水が、台地上にいくつもあるのも、生活上大事なポイントです。

つねに空腹との戦いであった古代人にとって、ここは天国のような土地でした。

2. [オホーツク人](#) [参照]: ポー川史跡自然公園入り口の手前1km、標津川を過ぎた左手砂丘の中が、5世紀に千島からやってきたオホーツク人の集落があった#[三本木遺跡](#) です。 9世紀に忽然と姿を消したので、謎の人達とか言われています。

オホーツク人は海洋漁猟民族なので、海岸に近く、標津川でのサケ捕獲に便利な、この場所を選んだのでしょうか。

最近の遺伝子分析により、縄文人とオホーツク人が混血して、アイヌ人に進化したことが分かってきました。 つまり、忽然と消えたのではなく、合体してしまったのです。

オホーツク人の持ち込んだ文化の中でも、木の板をつないで船に仕立てる構造船を建造する技術が、アイヌに引き継がれ、その結果海洋漁業が可能になりました。

3. [野付半島](#) [参照]: 親潮が、根室海峡に流れ込むときに、狭いので急流になっています。 その結果、標津川から排出された土砂が、本来河口にたまるはずが流されて、野付半島が出来ました。 近年、年1.5cm沈んでいるとか。 流入土砂が減ってきたのか、温暖化の影響なのか心配です。 もともと、うっそうとした森林が、地盤沈下により海水が流入し、枯れていく様子をご覧ください。↓

[↑ 根室標津駅/#1960年のトドワラ](#)

[🔍 画像拡大](#)



1960年代のトドワラ (のつげ半島ネイチャークラブ/トドワラ写真展より)

↑ 根室標津駅/#2023年のトドワラ

[🔍 画像拡大](#)


現在のトドワラの様子 (2023年)

結局現在も、標津はサケで生きています。

駅近くの郷土料理 **武田** で食べた、標津名物の三色丼、普通なら錦糸卵のところをさけ削りぶしになっていました。↓

↑ 根室標津駅/#さけ削りぶし

[🔍 画像拡大](#)


栄養豊富な親潮の影響により、サケが豊富で古代より栄え、しかし親潮の影響で寒冷なので農作が出来ず、サケから脱却できない標津でした。

話は変わって、駅の話です。

(廃駅)**根室標津駅**[参照]は、1989年に廃止されたJR標津線の終着駅でした。

終点なので、折り返しのための転車台がありました。現在はそれだけ、残っています。↓

↑ 根室標津駅/#転車台

[🔍 画像拡大](#)



タグ: #佐藤和夫ようこそ #私鉄と廃線の旅 #JR最長経路の旅 #駅の風景 #旅日記 #写真 #根室標津駅 #ねむろしべつえき #標津線 #標津町 #標津遺跡 #鮭 #サケ #遡上 #ポー川 #オホーツク人 #親潮 #野付半島 #トドワラ #地理 #歴史 #廃線 #廃駅

あわせて訪ねたい駅



#西春別駅



#帯広駅



#池田駅



#厚岸駅

↳他駅もご覧ください。

なおJR最長経路については、[JR最長経路問題・徹底解](#)をご覧ください。

周辺のこちらもご覧ください。

- ブログ: [ポー川史跡自然公園](#) #標津町 #北海道
- ブログ: [北海道 標津町の観光](#)
- ブログ: [北海道 野付半島に向かいます](#)

最近記事もご覧ください。

- (25/01/20)新着記事:[根室標津駅](#)
- (25/01/01)あけましておめでとうございます。今年も気持ちよい快晴で新年を迎えること

が出来ました。 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

↳[もっと見る](#)

[北海道](#) [関東](#) [中部](#) [九州・四国](#)

[🍷佐藤和夫先頭ページへ](#) [👤ページ先頭](#) [🔗リンク集](#) [📧ご連絡](#) [👤自己紹介](#)

ようこそ！ (2025年01月20日 月曜日更新)

この文書の著者は[佐藤和夫](#)([水彩画と旅](#)、[ソフトウェア開発論](#))です。

☆ご意見、コメント、誤字脱字などがありましたら、[ご連絡](#)メールフォームに書き込みをお願い致します。 お待ちしております。

Copyright(c)2006- [Kazuo SATOH](#). All Rights Reserved. なお、このサイトへのリンクは大歓迎です。 掲載されている文書や画像などの著作権は留保されています。 無断転載はご遠慮ください。 First created on 10.December 2006. Access counting started on 02.March 2009.

#佐藤 #和夫 #Sato.K #Kazuo Satoh #さとうかずお #サトウカズオ #s-kazuo #ようこそ #佐藤和夫 #佐藤 和夫